

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	大学における伝統文化を活かした教養教育の開発研究
------	--------------------------

研究代表者

氏名 小嶋茂稔	所属 人文科学講座歴史学分野	職名 准教授
------------	-------------------	-----------

研究分担者

氏名 田中比呂志	所属 人文科学講座歴史学分野	職名 教授
下村周太郎	人文科学講座歴史学分野	講師

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本研究は、優れた知育遊戯である囲碁と将棋を教養教育の一環として大学教育の中で活用する意義と、本学の教養教育の中で囲碁や将棋を取り扱う場合の留意点について検討を深め、その授業の進め方を開発・研究したものである。

研究代表者の小嶋茂稔が、囲碁について、研究分担者の田中・下村が将棋について、それぞれの遊戯の持つ歴史や、現代社会における位置づけ等について検討を加えた結果、いずれも、大学での教養教育の中で、取り上げるにふさわしい内容をもつものであると結論づけることができた。その上で、現段階において、囲碁や将棋が、実際に大学の正課の一環として、どのくらい取り入れられているかを諸方面から検討したところ、大学での授業での取り上げられ方や、授業運営の方法等について、一定の実績を持っている囲碁を、平成27年度カリキュラム施行開始にあわせて、本学の教養教育の中でとりあげられるべき、との結論を得た。

最終的に、平成27年度カリキュラムの中の教養教育「総合学芸領域」の中の、「その他」に分類される、「学芸フロンティアA」として、囲碁を授業に取り上げることが、学内の関連委員会等で承認されたため、続いて、本学において囲碁を授業に取り上げていく上で、必要となる準備等について、調査・研究を進めた。

公益財団法人日本棋院は、300人を超える専門棋士を擁する、囲碁の専門的機関であり、囲碁の普及の一環として、大学における囲碁授業の実施・運営に積極的に関与しており、すでに東京大学等の大規模総合大学において、授業実施の豊富な経験を有していることが判明した。そのため、授業実施に必要な物品や、授業運営に必要な知識を得るため、平成27年度の「学芸フロンティア」のゲスト・ティーチャーを依頼する予定の公益財団法人日本棋院所属の穂坂繭三段(専門棋士)から、専門的知識の提供を受け、平成27年4月からの授業準備を進めたところである。

研究成果発表方法

[発表論文名(口頭発表を含む)、氏名、学会誌等名(投稿中・投稿予定・執筆中)を記入する。]

※本経費を用いて、報告書(冊子等)を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

本研究の成果は、2015年度春学期に開講されている「学芸フロンティアA」の授業の成果を含めて集約し、本学紀要等を活用して研究成果を公にする予定である。